

環境月間特別企画「環境でトーク」

豊かな海を守り育むために



国崎沖、水深5メートルで撮影した
コンブの仲間「カジメ」の海中林

6月の環境月間にちなみ、今年も「環境でトーク」を実施しました。

今回は、市長と、鳥羽水族館館長の古田さん、国崎町で海女をしている大畑さんにお話をいただきました。

今回の対談は、4月1日に運用を開始した鳥羽港（佐田浜）のマリンターミナルで行われました。



答志島沖の無人島「浮島」で、漂着した空き缶やペットボトルなどを拾い、海岸清掃を行う答志小と桃取小の4・5年生

中村 今日3つのテーマについて議論いただきます。
はじめに、それぞれのみなさんの立場で鳥羽の「海洋環境」についてお話しください。
古田 鳥羽湾は、伊勢湾から海水が入ってくるため、伊勢湾が汚れると鳥羽湾も汚れる。わたしが昭和46年12月25日に鳥羽水族館の面接に来たとき、妙慶川は非常にきれいで、ソラスズメダイやオヤビツチャというきれいな魚がいた。今はその魚がいなくなり、妙慶川自身も汚れている。
鳥羽湾は外海からも近く海水が入ってきて、潮の流れが速く、海水がいい。ジュゴンのえさとして、昔はアマモを採っていたが、今はなくなつた。アマモがなくなつた理由は、護岸を整備したことにより潮や砂、海底の泥の動きが変わつたからだと思う。あわびのえさである藻場が減つた理由も潮の流れが変わつたからだと思う。
あわびが少なくなつたのは、水の汚れもあるが、採りすぎたからかなとも思う。昔は全部獲っていたが、今は禁漁場所を設けたりして獲り過ぎないようにしている。
一度汚れた海は、10年や20年では戻らないと思う。今の



進行役を務める中村環境課長
「たくさんあわびが獲れた昔の鳥羽の海に戻りたい。」

海を大事に守っていけば、孫の代やひ孫の代にはきれいになるのではないかと思う。
わたしが専門に研究している「スナメリ」が鳥羽湾にもいる。汚染された魚を食べているとスナメリも世代交代はできなくなる。伊勢湾や三河湾には少なくとも3000頭はいる。増えても減つてもいいので、現在は安定している状態であるが、えさがなくなるとスナメリもいなくなる。
中村 海女さんとして、実際に漁をされていますが、海の様子についてお話しください。
大畑 約40年前から海女をしています。昔は道具を使わなくてもあわびをたくさん獲ることができた。あわびがたくさんいて、拾っている感じであつた。
昔は毎年アラメを採ってい



古田 正美さん
(株鳥羽水族館 専務取締役 館長)

鳥羽湾にたくさんいる「スナメリ」の研究をしている。COP10のシンポジウムでは研究発表もしている。

外国産の生き物を減らしていくことが重要である。

へもつと流すことが大事であると考えている。川の水が増えるという事も聞いており、そのあたりにターゲットを絞って、やっていく必要がある。それに対しては、新たな予算

を組んで対応を始めている。

中村 次に、最近、あわびなどが獲れなくなったとよく聞きますが、それぞれの立場で原因は何だと思いますか。

古田 鳥羽市全体から見ると河川はないに等しい。ただし、山が非常に近いので、山からの水をどのようにもってくるかが問題である。この水は木曾三川の雪解け水や伊勢湾西岸の河川の影響が大きい。川を見るとほとんど水がない状態になっていて、そこに、はたして栄養がくるのかというのが問題である。海岸沿いに砂が集まってこない。土石流対策として砂防堤ができて山から砂が流れてこなくなり、砂浜がなくなつて

きている。

砂浜がなくなると水の浄化ができなくなる。鳥羽水族館では、砂浜の水の浄化システムを利用して。それほど砂浜は重要な場所であり、それが消えてきている。釣り客がごみを捨てている

ケースがあるので、啓発をする必要がある。家庭における合併処理浄化槽の普及率も向上させる必要がある。観光産業で生きていく場合、特に海の水をきれいにする必要があるので。

市長 いろいろな原因は考えられるが、本当の原因はなかなかわからない。原因としては、魚群探知機の発達やウェットスーツの導入で魚を獲りすぎたこと、古田さんが言われた家庭からの雑排水、特に合成洗剤の影響、地球温暖化による影響として、冬場の魚

は藻を食べなかったが水温が上昇すると魚が全部藻を食べてしまうこと、護岸整備や砂浜の問題などがある。

先ほど古田さんが言われたとおり、どの川を見ても水が流れていない。山は茂っているが、川に水が流れない。その原因は、山を放置していて、木が自由に水を使っているからである。それによって葉が増えてどんどん蒸散し、昔に比べて川に流れる水が減ってきている。これは確実に漁業に大きな影響を及ぼすと考えている。

市としては、これを原因の一つと考え、この問題を解決することによりあわびなどの漁獲量が増えてくると考えている。

大畑 生活排水が原因だと思う。それが原因で磯焼けもしている。また、海底のごみが

たが、磯焼けもあり、最近では採っていなかった。去年アラメを久しぶりに採った。今は、海底にビニール袋などのごみが目立つようになり、あわびが住みにくくなっている。昔は一呼吸で3、4個のあわびが獲れていたが、今はなかなか見つけることができない。昔の海に戻ってほしい。

国崎は、稚貝の放流や禁漁区の設置をしている。あわびは急になくなったわけではなく、だんだんと減ってきたと思う。

中村 市長として鳥羽の海の実態をどのように感じているのかお話しください。

市長 海環境がどうなっているかについては、はっきり言って海に潜らないわたちとしてはよくわかりません。しかし判定するには、昔はあわびがたくさん獲れたとか、獲

れなくなったとか、藻場が枯れてしまったとか、そういう話を聞いて海が悪くなっていると感じるくらいだと思う。それは、わたしだけでなく、ほとんどの人がそうだと思う。家庭雑排水について考えると、以前よりは合併処理浄化槽がどんどん増えていて、人口も減っているの、水はきれいになっていると思う。合成洗剤などの利用で排水は見た目ではきれいになっているが、魚介類は減っている。何か原因があると思う。考えられる原因を一つ一つなくしていくことによって、良くなっていくと思う。その原因としては、古田さんが言われた獲りすぎや大畑さんが言われた昔なかったビニールなど腐らないごみが増えたことがあると思う。

市としては、山の栄養を海



木田 久主一
(鳥羽市長)

藻場が少なくなったことや漁獲量が減った原因を探り、一つ一つ解決していきたいと考えている。

山の管理が大切である。「森と海のぎずな事業」に積極的に取り組んでいきたい。



大畑いちえさん
(国崎町 海女)

約40年前から海女をしている。昔は道具を使わなくてもあわびをたくさん採ることができた。

この先もずっと海女 をしていきたい。

海を荒らしていると思う。船で人が運んできたことにより、外国産の生き物が増えていく。例えばムール貝がかき筏についていたり、冬になると昆布が生えたりする。種がよそから運ばれてきて

いる。今まで鳥羽にいなかった生き物が増えて、今までいた生き物がなくなった。外国産の生き物をどうやって減らしていくかも問題である。市長 いろいろな原因があつて、今の結果があると思う。海は陸と良いことも悪いことも連動している。山からの養分や大量のきれいな水は海を良くし、生活排水やごみ、環境ホルモンは海に害を与えている。江戸時代はわら文化であり、すべてがわらであつた。わらは川や海に流れても腐れば栄養になる。循環型のいい社会であつた。

今、答志や菅島や本浦などで若い人たちが藻場づくりに一生涯懸命に取り組んでいて、非常にありがたいことである。市では、今まであつた藻場がなくなったという根本的な問題を解決することを目指し、若い人たちと一緒に取り組んでいき、この事業を長年継続していきたい。

最近、市外から来た嫁さんも海女をしている。国崎は時間を決めて海女をしていて、日によって潜れる浜を変えている。ほかの地域に比べて厳しく管理して漁場を守っている。これによってあわびを獲りすぎないようにして、この方法をこの先も守っていくことが必要であると思う。古田 管理されていない山が



昨年7月1日に国崎町の前の浜で行われた御潜(みかずき)神事の様子。御潜神事は伊勢神宮へ献上する熨斗鰻(のしあわび)にするためのアワビを獲る神事です。

目立つようになってきた。昔はなかった。生活排水だけでなく、個人が捨てたごみも原因である。国崎は稚貝の放流をし、海を大切にしている。中村 最後に、海を守り育てるにはどうしたらよいと思いませんか。大畑 この先もずっと海女をしていきたい。昔のように海がきれいになれば、ずっと海女ができる。

本当に害になるものが何かをつきとめる必要がある。陸の環境を良くしてきれいな水が大量に流れるようにすることが必要である。また、漁師は小さい魚を獲りすぎないようにし、密漁を防ぐことが必要である。「みんなが気をつけること」が究極の解決策であると思う。

いて市でも「森と海のきずな事業」をはじめ、積極的に間伐をやる。間伐をすることによって、光が差して地面に草が生え、雨によって土が流されないようになり、川の水が増え、それが藻場の育成につながるかと考えている。また、雇用も増える。

